

平成29年3月定例会 議事録

- ・日 時：平成29年3月2日（木）19：00～20：50
- ・場 所：石川県NPO活動支援センター「あいむ」ロビー
- ・出席者：五十嵐、池田、大竹、黍野、木村、今度、蓮井、村中、山崎、吉田
（計6名）
- ・欠席：なし
- ・進行・記録：大竹

〈議題〉

1. 北陸鉄道について
2. 新しい交通システム検討委員会の提言について
3. ホームページ「金澤のりもの御意見番」開設について
4. キーパーソンや若者との交流について
5. その他

〈内容〉

議題1について 北陸鉄道について

- ・市内線廃止50周年事業

2月2日～8日、県立図書館でのパネル展示については、500人以上の来場者があった。北鉄本社の協力を得て最新の技術で拡大した路面電車の写真と路線図のパネルが目を引いた。今後のイベントでも活用される模様。

10日の記念式典には、中村県議をはじめ北鉄からは中辻常務、坂下鉄道部長、労組の委員長などが列席した。LRTの会の毛利氏による講演があった。

蓮井氏も参加し、北鉄関係者と新交通についての意見交換をした。北鉄側が積極的になれない理由として、多くの従業員を雇用している会社なので、新交通システムにより赤字にできない不安面がある。鉄道線の上下分離方式など経営面での安定した環境を整えることを望んでいる。

バスの運転手不足も深刻であるという。しかしLRT導入により、輸送効率の改善や人件費の削減、収益の増加、経営の効率化が図られるのでないか。

イベントの様子は、15日MROニュースレオスタでも取りあげられた。

議題2について

新しい交通システム検討委員会の提言について

- ・内容についての評価点と問題点

第2回委員会の議事録によると、行政担当者（国と県の道路管理者）が、自動車への影響を心配ばかりしており、新交通導入に対する消極的な意見が

みられる。

平成22年頃に国土交通省道路局により制度化された補助金は、初めてLRTの新規導入事業を対象となった。補助率55%の好条件となっているのは金沢市をはじめとする地方中核都市の交通研究会からの熱心な要望があったため。それまでの鉄道局の補助金は、既存鉄道の施設更新費用としてしか認められず、率も1/3しかなかった。

霞ヶ関の官僚は頑張ったが、地方の行政担当者はこれまでの経緯について勉強も理解もしていないのが残念。

発言の中では唯一、香林坊地区への交通結節点の必要性を提案している点は評価できる。

・各方面からの反響

報道によれば、石川県知事が道路交通量の削減が難しいとの発言があった。現在国道157号の通行量は32,000台であるが、新交通導入で2車線に減らすと残り2車線の処理台数は12,000台となるとしている。しかし157号は、青信号の長時間走行により16,000台の処理が可能である。

知事は導入空間の確保が物理的な事情により難しいと心配しているが、本来はマイカー利用の市民が、自発的かつ積極的な意志により新交通に乗り換えるものを想定している。

知事が誤解する原因として、県の担当者が正確に知事に伝えていないことが考えられる。

北國新聞の記事も消極的な論調であった。市電廃止記念事業についても記者の取材意欲が感じられなかった。また、記事の署名もない。

金沢商工会議所については、深山会頭は消極的な見解を示した。しかし会員には肯定派も存在する。

共産党は、LRTに反対の意見書を提出した。「LRTには市民が反対している」としている。我々の感覚では、身近なところで、町会や町会連合会は新交通に期待を寄せる声が多いと聞いている。彼らの言う「市民」の対象が分からない。毛細血管交通（コミバス）の必要性を言うが、動脈交通（新交通）の意義を理解していない。また現在のマイカー中心の交通体系に疑問を持っていないのだろうか。

唯一、新交通実現に熱く語るのが、馳代議員である。白崎前県議も期待している模様。

中日新聞では、論説委員会で徹底的な議論をし尽くし、LRTが必要との結論に達したとのこと。

- ・今後の当会の対応、方向性、取り組み、戦略
森、野本、黒沢各市議や紐野県議などと意見交換が必要。また交通政策課とも一度意見交換の場を持ちたい。
郊外の住民の賛同を得るためには郊外の路線バスの再編や改善がカギとなろう。
来年度以降、金沢市交通政策課と意見交換の場を持ちたい。その際、当会としての意見をまとめたものも提示してはどうか。
次回定例会でも、引き続きこの議題を話し合うこととする。今回の資料を持参して欲しい。

議題3について

ホームページ「金澤のりもの御意見番」開設について

- ・当会URL <http://kanazawa-kotsu.sakura.ne.jp/>
一回目の投稿は「ダディ」氏。一度ご覧頂きたい。

議題4について

キーパーソンや若者との交流について

鉄道少年団との交流をしてみてもうだろうか。

また、市民に新交通を理解してもらうには、Nゲージサイズによる金沢の街並みのジオラマ展示やLRT模型を走らせてみると効果があるのではないか。

建築を専門とする学生たちに模型を製作協力してもらい、未来の金沢のジオラマづくりに取り組んでみるとうだろうか。

次回予定 … 定例会 29年4月6日(木)、19:00～ 「あいむ」にて